

## 魚類養殖視察交流会

大城信弘・甲斐哲也

### 1. 目的

伊平屋村漁協は魚類養殖場造成を計画しているが、陸上池でのヒラメ養殖は行っているものの、海面生け簀での養殖経験が無い。

そこで今回、海面魚類養殖のノウハウを学ぶべく魚類養殖の先進地である羽地漁協、今帰仁漁協管内の魚類養殖の視察・交流会を実施した。

### 2. 交流先

今帰仁漁協所属：上間義昭氏養殖場

羽地漁協所属：玉城高亨氏養殖場

羽地漁協所属：仲宗根真徳氏養殖場

羽地漁協所属：塩屋養殖グループ養殖場

### 3. 期日

平成13年10月25日（木）

### 4. 参加者

伊平屋村漁協

仁部寧夫・諸見富雄・屋富祖正和

沖縄県水産試験場普及センター本部駐在

大城信弘・甲斐哲也

### 5. 交流地概要

交流地は羽地湾・塩屋湾の一角にあり、両地とも周囲を陸地で囲われ、台風の強風が防がれる。しかしその分海水交流はやや少なく、陸水の影響も受けやすく、赤土汚濁が頻発する。

視察した個々の筏の状況は、上間氏の養殖筏は羽地湾の本部半島側、今帰仁村字湧川ウンバラ地先に位置し主にマダイ、スギ、マルコバン、ヤイトハタ等を養殖している。

玉城高亨氏の筏は羽地湾の屋我地島側、名護市字我部前垣地先に位置し、同じくマダイ、ス

ギを主とする。

仲宗根氏の筏は、羽地湾の屋我地島側、名護市字運天原地先に位置し専らマダイを養殖し、一部ゴマアイゴや天然採取魚が養殖されている。

塩屋グループの養殖筏は、大宜味村字宮城地先の塩屋湾の一角に位置し、マダイ、スギ、ハマフエフキ等が養殖されている。

### 6. 交流内容

始めに、今帰仁漁協組合長による、今帰仁漁協内養魚の概略説明の後、羽地湾内の養殖を上間氏の船・案内で上間氏の養殖場、次いで玉城氏、仲宗根氏の養殖筏を視察し、それぞれから説明を受けた。

その後、車で大宜味村宮城地先養殖場に移動し、現地では主に屋良氏より説明を受けた。

視察・説明は生け簀の材・構造から給餌や網掃除、魚病対策、流通まで養魚の全分野に及んだが、その中から各魚種の特徴的な点を以下に記す。

ヤイトハタは擦れに弱く、生け簀では生残率が低い。特に幼・稚魚期は弱く、冬場の低水温期には成長も鈍る。

スギは種苗を台湾から入れているが、稚魚の歩留まりが低い。特に冬場は弱くハダムシの寄生も多いが、夏場は強く成長も著しく早い。生産は県内魚種では最も多い。

マダイは飼い易い魚だが、夏場の高水温に弱く、イリドウイルスに感染すると、小型魚は大量死を招く。

ハマフエフキ、チンシラーは丈夫だが、マダイと比べ成長が遅い。

マルコバンは最近になって台湾から導入されたが、今のところ生残率がきわめて高く、成長

も良い。

流通・販売については、個人で県内業者を開拓、種苗入手・販売とも本土業者と取引、県漁連を通じて販売、県内スーパーとの提携、及びこれらの組み合わせ等でそれぞれで異なった。

いずれの生産者も魚価の低迷に頭を悩ませており、売り先の確保、流通の安定が望まれている。

## 7. 交流所感

伊平屋漁協からの3名の内、仁部氏は奄美大島などでの養魚経験が豊富とのことであったが、他の2名は養魚の経験が無く、百聞は一見にしかずの感があったと思われる。

今回の目的は、実際の養魚管理の把握もさることながら、一つには伊平屋島での養殖適種の検討が含まれている。

現在ヤイトハタを念頭に養殖場造成が計画されているが、前述のように擦れや低水温に弱い。特に小型魚は生け簀での飼育は、生残率が低い。

その点では伊平屋村漁協は陸上池も有しており、陸上で大きくし、それから生け簀に出す二段階飼育である程度の対策は可能であろう。

しかし、種苗の入手から製品販売まで、島外に頼らざるを得ない離島のハンディーを克服するには、高い生残率と高付加価値の製品出荷が求められる。

その点では、今回の交流の魚種ではマルコバンやスギが検討魚種の一つに上げられた。これらは種苗を台湾から輸入せねばならず、マルコバンは市場性も不明である。

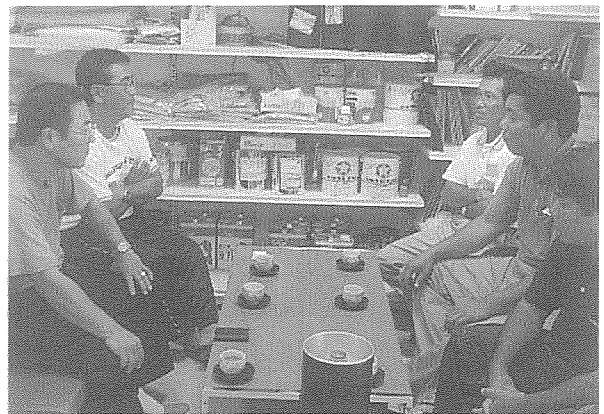
しかし生残率80%以上、仕入れから一年で1kg以上に達する成長の早さは、現在の養魚種の中ではスギと共にかなり優れた養魚特性を有していると考えられる。

但し、これらは同魚種が有望と積極的に取り組む魚種ではなく、消去法で残したものの感は否めない。

県内各地で魚類養殖が行われるようになり、

県内生産地間の競争も今後益々厳しくなると予想される。

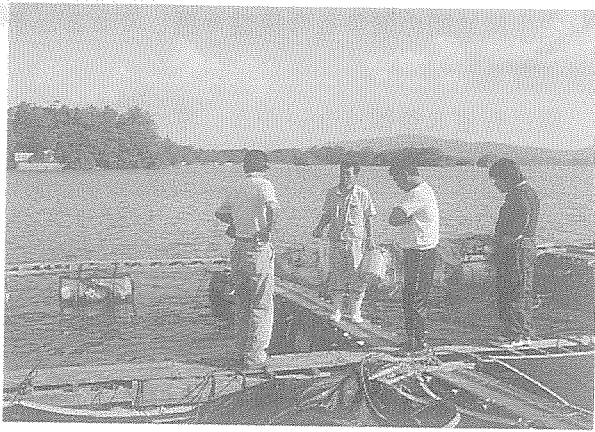
他に有望な魚種はないかと、常に問われており、養魚特性に優れた新魚種の開発が急務である。



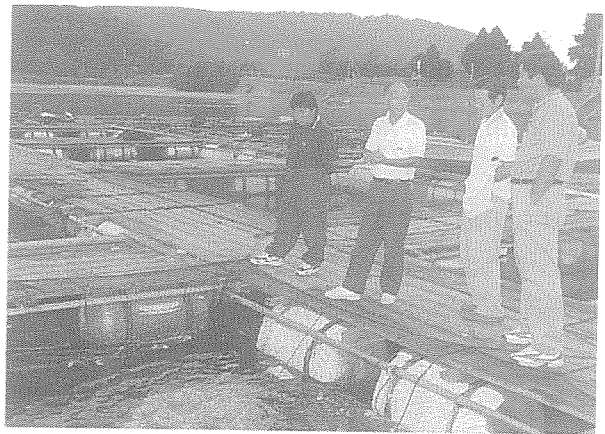
今帰仁漁協にて組合長説明



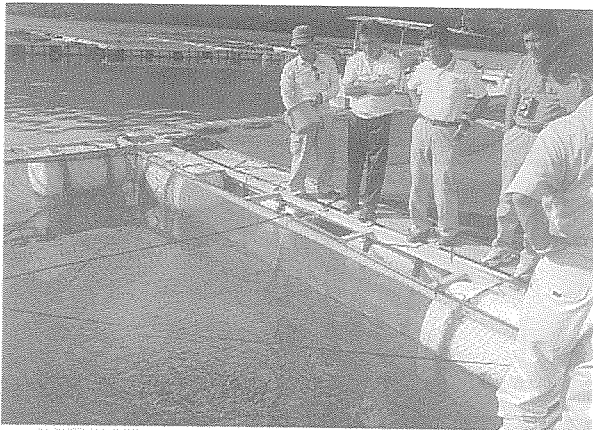
上間氏の船にて案内



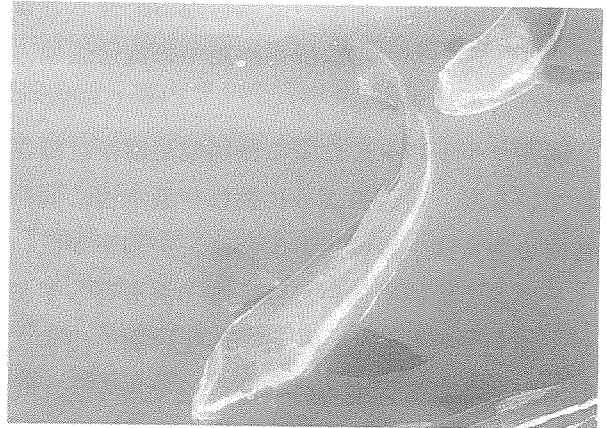
上間氏の筏にて



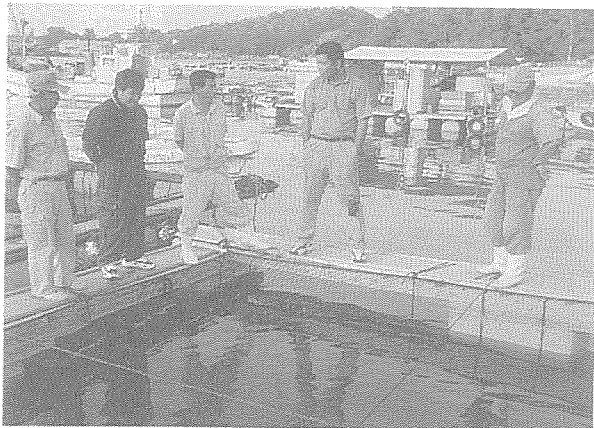
宮城地先  
(塩屋グループ・屋良氏説明)



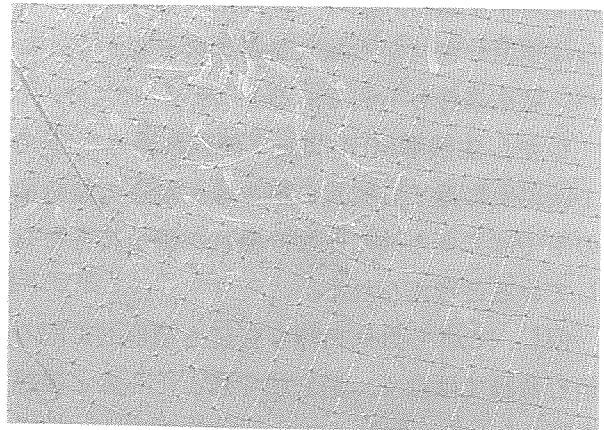
玉城氏の筏にて  
(餌をやり魚を寄せる玉城氏)



上間氏養殖のスギ



仲宗根氏の筏にて



生け簀のネット覆い  
(幼魚期の鳥害防止用)